

# 学校における授業のユニバーサルデザイン

～ 特別支援教育の視点をすべての児童生徒の指導に生かす ～

特別支援教育は、LD、ADHD、高機能自閉症も含め、障がいのある幼児児童生徒に対して、適切な指導や必要な支援を行うものです。しかし、一人一人の教育的ニーズを把握した適切な教育的支援は、障がいの有無にかかわらず、すべての幼児児童生徒の指導においても必要です。

小学校学習指導要領解説総則編 第5節教育課程実施上の配慮事項3「学級経営と生徒指導の充実」では、「分かる喜びや学ぶ意義を実感できない授業は児童にとって苦痛であり、児童の劣等意識を助長し情緒の不安定をもたらし、様々な問題行動を生じさせる原因となることも考えられる。」と述べられています。

そこで、分かりやすい授業づくりのポイントとして、学校におけるユニバーサルデザインの一部を紹介したいと思います。これらの方法は、障がいのある子どもには、※「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利」な指導方法です。

## 学校におけるユニバーサルデザイン

環境の工夫

ルールの明確化

視覚的な支援

学級全体

「誰にもわかりやすく、安心して参加できる教育環境を作る」

- 学習指導 → どの子にも学ぶ喜び、わかる楽しさを感じさせ  
確かな学力が身についていく授業作り
- 生徒指導 → 一人一人の自己実現を図り、自己有能感を高める教育活動

発問や説明の工夫

認め合う場の設定

学校全体のユニバーサルデザイン

- 学校環境、教室環境づくり
- 分かりやすい授業づくり
- 満足感・成就感が味わえる学習活動の設定
- 安心して学べる仲間づくり

教科の専門性

特別支援教育の視点

### 1 板書と机間指導の工夫

構造化された板書と意図的な机間支援！

- シンプルな黒板にする。きれいな掲示で装飾することが良いとは限らない。不必要な刺激を取り除き、黒板に注目しやすい状況をつくる。
- 注意書きやマーク、色チョーク使用などで注目させる。文字の大きさや行間に配慮する。
- 机間指導は、児童生徒一人一人と触れあうチャンスととらえ、つまずいている子だけでなく、進んでいる子にも言葉かけやサインを送り学習意欲につなげる。
- 児童生徒のニーズ、課題、つまずきを把握するための座席表観察シートを作成して、成果を上げている小学校もある。
- ◇ 板書のスピード、タイミング、児童生徒による板書など、少し工夫するだけでも授業は生き生きとする。「板書計画」の見直しや小黒板の活用などを図る。

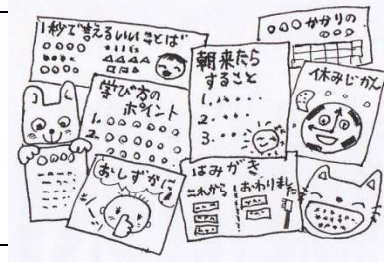
### 2 見通しが持てるようにする。

本時のねらいや授業内容の見通しを明確に！

- 授業の流れを予告する。
- 指導は、短時間（集中できる時間）で行う。
- ◇ 具体的なめあての提示方法を吟味する。
- ◇ 子どもの状況、学習内容に合わせて、カードなどを組み替えて提示する。
- ◇ 何を、どんな順番でやり、どう取組み、どこで終わるのかなど、はっきり具体的に伝える。（授業全体、話し合い活動の場）

### 3 視覚的に示す。 百聞は一見にしかず！

- 簡単な言葉で、目につきやすい場所に掲示する。
- イラストや写真などを使う。
- 視聴覚教材を有効に活用する。
- ◇ 「ポイント」「静かに」などのイラストカードを提示する。
- ◇ プロジェクターやプレゼンテーションソフトを活用する。



### 4 話し方を工夫する。 話し方一つで子ども達の集中度に変化！

- 指示は、具体的に、わかりやすく。あいまいな指示やほのめかしは、混乱のもと。
- 1文1動詞の話をする。「1つ目は～します。2つ目は～します。」
- 声の大きさ、抑揚、スピード、間や方言（会津弁）など話し方次第で同じ内容でも子どもたちへの伝わり方は異なる。自分自身どのような話し方をしているか振り返る。
- ◇ 大切なポイントについては、一斉に指示したあと個別に指示する。

### 5 肯定的に評価する。 注意や説教は、逆効果！

- 授業内容が理解できないことを児童生徒のせいにはしない。
- できたことはしっかり評価する。(ほめる。)
- 具体的に指導する。
  - ・ 「こう言えばよかったと思うよ。」「○○すればできるよ。」と助言する。
  - ・ もう少しでできること、できかかっていることを利用する。
  - ・ 「～しないと校庭で遊べないよ。」ではなく、「～が終わるとたくさん遊べるよ。」と肯定的な表現を使う。
- 必要なときは、その場で、短く、具体的に注意する。
- 追い詰めた質問をしない。「今、何をやる時間ですか？」ではなく、「○○○の時間です。」と、してほしい行動を伝える。
- ◇ できたことを評価するのが目的なので、「×」印を付けて、子どもを不安定にしたり、子どもの意欲を失わせたりすることがないように配慮する。

### 6 学級を育てる。 お互いの違いを認め、やる気のでる学級集団を！

- 落ち着いて学習できる環境づくりに努める。
- 一人一人が活躍できる場をつくる。
- 個別的なかかわりを多くする。
- 教師がモデルを示す。
- 間違いや分からなさを否定的に見ない学級集団をつくる。
- ◇ 分からないから学ぶ、間違いは恥ずかしいことではない、一人一人に応じた学び方がある、など学級全体が一人一人の個性や違いを認め合える集団にしていく。

## 私たちが感じる環境要因による困難さ

1. 突然、学習を外国語で教えられたら
2. 終わりのない行動を強いられたら
3. 自分の行動を一々否定されたら
4. 雑音の中で学習することを強いられたら
5. いっぺんに多くの指示をされたら
6. ものすごくしたいことが別にあったら
7. できないことをバカにされたら

